

◆帆苅謙治委員 先般、自由民主党を代表して本会議の代表質問をさせていただきましたが、それに関連して二、三点だけお聞きしたいと思います。村上の応援団ではないですけども、オリンピックのメダリストが出て、そして非常にいい話題を提供してくれたということでありまして、振興策を考えたらどうですかという質問をいたしました。県産材を利用した練習場がだいぶ古いのです。いわゆるぼろ屋でどうにもならないということをお聞きしていますが、それを何とかしたいとか、あるいは市と協議をするとか、そういう支援の方法もあるだろうし、観光面からも昔の城下町ですから、いろいろな資源もあるということで、今後、支援策を検討していくと知事は答弁されておりましたが、皆さんの分野でどういう支援方法を具体的に今後考えていくのか、少しお聞かせ願いたいと思います。

◎武本清志産業政策課長 オリンピックを契機といたしまして、どのような支援策が考えられるのかということでございますが、今現在、具体的にこれということではございませんが、全庁的に組織を立ち上げておりますので、そういった中で、具体的な内容が、今後、検討されていくと思っております。

◆帆苅謙治委員 知事はサービスのために言っただけだとは思われぬですね。はっきり言いまして、県産材を使ってくれるのか。県と市で半分ずつ出し合うのか。そういう協議も今後なされるのだろうし、他部局に連動する問題については、やはり協調性を持って前へ進めていくようお願いしたいと思うわけです。自分の仕事であればいいけれども、連動的な面については、少し遅いという気もしますので、その辺を具体的に進めていただければありがたいと思っております。

それと、私は夢を持たなければ若さが無いと思っておりますし、私も政治家の端くれとして、夢がなければやっている価値はないと思っております。そこで、私は持論として、太平洋側で今後二、三十年以内に地震が起きるだろうと、首都直下型地震とか、南海トラフ巨大地震といったことが言われておりますよね。そうすると日本海側へ、どうしても逃げてくるのは新潟だと思うのです。そういうことからすると、日本海側の拠点としての新潟を考えなければならないと思っております。例えば、道路網であれば、高速道路を片側1車線であれば2車線にしていく。こういう方法も今、やっております。日本海側国土軸ということでやっております。それにプラスしてエネルギーの拠点として新潟に集めていく。あるいは食料の基地として、それを明確に打ち出すことによって、避難してくるかたがたへの即応性といえますか、即対応できるということがあると思うのです。

そこで、先回のこの委員会で、農林水産部の審査時にも私は言ったのですが、冷凍倉庫です。いわゆる魚屋さんの冷凍倉庫ですが、規模がものすごく小さいのだそうです。東京、神奈川、千葉に冷凍倉庫が圧倒的に集中していると。日本海側については、全く問題にならないとは言いませんけれども、問題にならないに近いものがある。ましてやロシア産のたらこ

でしょうか。こういうものが釜山港に集中して、日本人のバイヤーが二、三百人いて、二、三か月か行って、ロシア産のたらこの8割から9割が日本にやって来ると。国策かもしれませんが、そういうことが実態らしいのです。したがって、オリンピック招致のときに、オールジャパンという言葉を使いましたけれども、オール新潟で、そういうガスパイプラインだけではなく、新潟県全体の拠点性を向上する大きな意味でのプロジェクトといたしますか、県側としていろいろ国に要望していくのも一つだし、あるいは県選出国會議員、今の与党、野党を問わず、あるいは県議會議員とも一緒になって、あるいは新潟市とも一緒になった中で、そういう大きな、今もやっているのでしょうかけれども、そういうものを大きな意味で構築することが必要ではないのか。そういうことで、私の思いを代表質問の項目に入れさせてもらいましたけれども、どう思いますか。悪いことだとは言わないだろうけれども、具体的な進め方として、どういう方法があるのかなと思っておりますが、どうですか。

◎渡辺琢也産業振興課長 日本海側で太平洋側のリダンダンシー機能を担うということは、非常に重要なわけですし、今の委員の御質問には、全庁的に考えないといけないことなのかと思います。例えば、お互い道路だとかが関連するとはいえ、水産関係だと水産関係の部署でしっかり考えないといけないし、エネルギーですとエネルギー関係の部署でしっかり考えないといけないと思います。そうは言っても、最後は繰り返しになりますけれども、例えば、港湾整備を最終的にどうするのだということをやっていかないといけないので、私どもは確かにエネルギーのところだけ考えておりますけれども、全庁的に話をしないといけないと思っています。ですので、そういった委員の御質問があったことを踏まえまして、やはり我々だけでは解決できない問題ですので、しっかりと全庁的に考えられるように、庁内でも意見としての提案という形でやっていきたいと考えております。

◆帆苅謙治委員 予算編成に向けた国會議員への説明などは、今でもやっているのでしょうか。そういう機会をとらえて、新潟県の応援団というのを、しっかりと構築していくということでやってもらえればありがたいと思います。産業振興課長のように、国から来ている人も、ずっと何十年来いるわけですから、そういう人を巻き込んだ中でやっているということをやって、新潟の優位性を保っていくと。こういう方法があると思うのです。産業労働観光部長、こういう発言もあったということ、庁議の場で発言はできませんか。

◎池田幸博産業労働観光部長 県全体を考えたりダンダンシーといたしますか、エネルギーだけではなくて、いろいろな面の災害対応という観点と。おっしゃるとおり、先ほどもオリンピックのこともありましたけれども、いずれも一つのテーマ、その部局だけでなかなかできないものと思っております、またその中でできるものは、迅速にやらなければならないと思っています。

県全体で話す機会があるかとなりますと、例えば、庁議で今日のテーマについて報告して、もちろんチームで情報を共有すると。また委員がこういうお考えだということ認識する機会になっております。私どもも、一つの施策として、県庁の事業継続計画というものをやっ

てございまして、平時には通常の体制の中でいろいろなシステムができていますけれども、では災害のときにどういう対応になっているか。壊れないようにするのではなくて、壊れた後もどう復帰できるかという形の中で、いろいろな取組がございます。そういった意味では、委員御指摘の件は、新潟の拠点性というのは平時ばかりではなくて、いざというときにきちんとやってくれること、新潟県の拠点性に対する信頼というものがあるかどうか分かりませんが、そういった意味で重要だと思っています。今定例会の代表質問に対しても、私ども産業労働観光部と農林水産部が一緒になって、知事との議論の中で答弁が作成されたこととございますので、繰り返しになりますが、全庁的に取り組んでいきたいと思っておりますし、今日の話も庁議等で報告していきたいと思っております。

◆帆苅謙治委員 ありがとうございます。次に、日本酒を売り込んだらどうかという質問もさせていただきます。その方策といいますか、アメリカのニューヨークかどこかでいがた酒の陣をすとかうんぬんという話も聞いておりますが、具体的なやりようといいますか、そういうものを今、持っているのですか。

◎渡辺琢也産業振興課長 まずは、ニューヨークのほうでアンテナショップという形で国際課と連携しましてやっていくということで、そういう単発もののイベントが効果があるのかということについて、まずはそういったアンテナショップで必要性を見極めていく必要があると認識しております。

◆帆苅謙治委員 そうすると、具体的にいろいろな商売のかたがたを呼んで試食会をすとか、そういうことではないのですか。

◎渡辺琢也産業振興課長 今のところ、そこまで具体的な話は決まっておらず、まずお酒を中心とした県産品を展示できるコーナーですが、これをニューヨークのほうに出展するということ、第一義的に考えております。

◆帆苅謙治委員 そこにはだれがどのようにして出して、だれが説明をして、どのような方法でそれを結びつけていくのか、教えていただけますか。

◎渡辺琢也産業振興課長 この話は、知事政策局の国際課でやっておりますので、私どもはお酒の出展という形で協力させていただきますけれども、具体的にどういうプロセスでだれにということの詳細になると、私どもでは把握しておりませんので、申し訳ございません。

◆帆苅謙治委員 せっかくやるのですから、連携を取って、お互いに分かり合えるようにしてもらえればありがたいなと思っております。新潟の食とか、酒とかというのは、売りがいいと思うのです。そこに連動して、これは農林水産部の話なのだけれども、今、有害鳥獣が非常に増えていると。私の地元の阿賀野市でも新発田市方面からたちの悪い猿とかがいっぱ

い来まして、大変なことになりつつあります。ただ、いちばん増えるのがいのししなのだそうです。これはどうにもならないという話を聞いています。そうすると、そういうくまでも、何でも、猿はまさか食べられないけれども、いのししとか、そういうものは料理方法によっては非常においしいのではないかという話もあります。駆除すればするほど、それが出てきますよね。

私は、テレビで見たのだけれども、北海道でしかでしょうか。それをみんな非常に喜んで食べているという話も聞くわけですが、今後、そういう獣肉が出てきたとき、駆除は県民生活・環境部ののだろうかけれども、その売り先、あるいは食の観点から、私はそれを利用すべきだと思っております。今後、どれだけ駆除をして、どうなるのかというシミュレーションも、お互いに情報共有して、料理の先生でも頼んで、新潟版のいのししの肉をどうするかとか、そういう研究までいなくても、そういったものを考える必要があると思うのです。そうでなければ、産業廃棄物として捨てるのか。そういうことになるのもったいない話でもあるし、新潟県のどこが関与しているか分からないけれども、東京などで売れるかどうか分からないけれども、そういうものをやっていく必要があるのではないかと思います。先の話でもあるようですが、喫緊の課題だと思うのです。県民生活・環境部と協議をして、獣肉の用途をと。あまり検査が厳しくないような気もしておりますが、その辺も踏まえて、どういう考えをお持ちですか。

◎池田幸博産業労働観光部長 いろいろな分野にまたがっているので、私が代表してお答えさせていただきますが、実は、私も環境企画課にいたときに、猟友会の御協力といいますが、御厚意で少し食べたことがありましたが、けっこうおいしいのです。確かにいのししはどうかと思うものもありましたけれども。県内、どれくらいあるかは承知しておりませんが、他県では、それをジビエというのでしょうか、そういう形で観光の売りにしているようなところもありますし、また本県でもそういう形が考えられるかと思っております。ただ、まず委員御指摘のとおり、個体数管理といったような環境サイドの話もございますし、また農作物被害という農林分野の話もある。そこに我々がまた地域の資源という形で有効に活用して、例えば、旅館のほうでお使いいただくような、うまく循環できるような形を、ひとつ研究していくいい御提言かと思いました。ただ、私もうろ覚えのところがあるのですが、処理のしかたについてのルールのようなものもあるようなので、そういったものも踏まえながら、研究させていただきたいと思っております。

◆帆苅謙治委員 特にいのししなどはものすごい繁殖力があると聞いておりますので、その辺を県民生活・環境部と協議をして、ジビエですね、いい方向にやっていただければありがたいと思っております。

次に、最後にしますが、エネルギーのベストミックスについて、質問をさせていただきます。原発が悪いと、あるいは危険だというのは私もそう思います。東日本大震災によって安全神話が脅かされているということも承知しております。しからば、それに代わる代替エネルギーが本当にあるのかということになると、太陽光、私の地元にも太陽光発電所が建設されて

いるし、ほかにもたくさんございますが、その容量たるや大したことはない。これからクリーンな、そして安全なエネルギーを開発していく、これは私は非常にいいことだと思っております。しかし、現段階で本当に安全性を確保した中で原発を地域の了解を得ながらあるものを利用していき、これも一つの方法だと思っております。ただ、現実的にはいい開発をして減らしていく、これがなければだめだとも思っております。ただ安全、安全と言うだけで、では、経済はどう考えていくのかということがあるわけがございます。例えば、太陽光パネルも価格がだんだん下がってくるわけでしょう。これは当然のことです。安全でも価格が高いエネルギーを使えば、会社でもみんな倒産してしまうということになるわけがございます。ただ、原発が安全か安全でないか、あるいは、いい方法のエネルギーを利用したほうがいいのかという質問に対しては、やはり安全なほうがいいに決まっています。私もそうであります。今も言いましたけれども、価格の面からいくと、命には代えられないと言いながらも、では倍になるぞということになるというのは、非常におかしな話です。原発がなくなると電気料がこうなりますということを政府が示さないのも悪いかもかもしれませんが、いろいろなエネルギー調達の方策があって、そしてこういう組み合わせの場合は幾らになるのだというシミュレーションも、国が本来はやるべきなのだろうけれども、新潟県としてそういうことも考えていく必要があるのではないかと考えています。

もう一つ、自分の持論を言わせていただければ、京都議定書に基づいた地球温暖化対策を以前はやっていたが、それが全く今はなされていないと。中東から原油を買って火力発電所でばんばんCO₂を出している。そして、外国から原料を買って、製品にして売るという日本の貿易のスタイルが逆になってきている。日本のお金が外に出てしまっている。そういうことを考えると、日本で生産をして売っていくというスタイルも揺らいでいるということからすると、私は非常に懸念しているところです。いろいろとらまえて、どういうスタンスでものを見ていけばいいというか、どういうことを産業労働観光部では考えているのか、経済面から見て、少しお願いします。

◎渡辺琢也産業振興課長 エネルギーのベストミックスの話でございますが、まず、先に結論を申し上げますと、これは一地方自治体だけで把握することができない問題だと思えます。と申しますのも、まず、需要面から考えましても、例えば、電力系統は全国津々浦々、新潟県という枠組みを超えてつながっているわけがございます。新潟県で発電した電気が仙台市に行っていたりするわけがございます。そういう中で新潟県の需要を、新潟県の中で発電し、新潟県の中で消費するという状況ではないことを考えますと、その時点で新潟県の枠組みを超えております。しかも、いちばん重要な燃料の調達ということを考えたときに、それこそロシアから調達するのか、あるいは北米のシェールガスというものができて、このシェールガスをどう取ってこようかと。そのときには日本と米国の国家間の通商の貿易のルールの問題が絡んできます。そうすると、新潟県だけでどこから燃料を調達するかということも考えることができませんので、やはりエネルギー政策は国家の政策としてやっていくべきだと考えている次第でございます。一方、新潟県でできることとして、分散型エネルギーの推進をしていくというように認識しております。

◆帆苅謙治委員 終わりますが、まさに産業振興課長が言うとおりで、一地方が日本国全体のことを言える立場にはないというのはよく分かっております。ただ、原発に賛成か反対かではなくて、安全を求めていくと。それだけに特化していく。現実を直視しないでそうやっているというのが私は本当に短絡的といいますか、ちょっとおかしいのではないかと危惧（きぐ）しているのです。というのは、それだけに進んでいって本当に日本の経済がもつのか。我々の生活が安定していくのかということ考えたときに、短絡的な考えとは言いませんけれども、いろいろなことを踏まえて本当に考えていく必要があるのだろうということ、自分の持論として言わせていただいて終わります。